

ごあいさつ

神戸大学 理事 副学長
正司 健一

みなさま、ようこそ神戸大学においでいただきましてありがとうございます。ただいまご紹介にあずかりました正司です。企画・評価を担当しております。ということでみなさんと同じように大学評価を担当している者でございます。

この度は、神戸大学を使っていただき、大学評価に関わる担当者のみなさん方が集まっただき、いろいろな意見交換、情報交換、さらにはお互いに研鑽をする、というようなディスカッションの場をもっただけ、ということで非常にありがたく思っております。これから明日の夕方まで2日間、熱心な議論が各方面に渡ってされるものと思いますし、また幸いにして、ご覧の通り、俗世間に降りて行くには遠い場所ですので、街中の喧噪から離れたこの地の利を活かした議論をしていただけるとありがたいかな、と思っております。

私もこの立場になって4年目になります。当初は「え？評価？」という形ですね、なんか余計な仕事を頼みに来た、そういう視線でもとすれば見ていたかもわからないのですが、最近、自分たちの取り組んでいることをちゃんと社会の方々に説明するのにエビデンスをしっかりと把握して説明するということの重要性が組織構成員のみなさま方にご理解されてきて、そういう意味では評価というのは重要な手法という言い方をしているのかもしれないと思えるようになりました。こういった説明だけでは、問題があるかもわかりませんが、少なくとも学内では、評価がそのプロセスだという認識は高まってきたと思います。それだけに、評価は今後ますます重要なテーマになると思います。今日はたくさんの議論を通じまして、みなさま方に何かお持ち帰りいただけるものを得ていただければ、会場を提供した我々としても非常にありがたいと思います。暑い中、大変だと思いますが、実りある、実り多い議論が進展されることを祈っております。

甚だ簡単ではありますが、開催校としてのご挨拶というよりは、使っていただきありがとうございます、というお礼の言葉に代えさせていただきます。本日は、多くの皆様にお越しいただき、ありがとうございます。

